

来日前の学習者を対象にした動画教材作成の試み ー地域リソースを利用したコンテンツの開発ー

森川結花

甲南大学 国際交流センター
神戸市東灘区岡本 8-9-1, 658-8501

概要

2020年秋、甲南大学Year-in-Japanプログラム日本語コースは、留学準備教育コース（オンラインコース）のための動画教材6シリーズを開発した。本報告は、学習者にとって留学目的地である神戸および甲南大学に存在する地域リソースを活用してコンテンツが作成された3シリーズについて取り上げる。そして、各教材のねらいとコンテンツの概要、それに対する学習者および教師からの評価を紹介する。

キーワード： 留学準備教育、地域リソース、教材開発、動画教材、オンラインコース

1 はじめに

2020年秋、世界的レベルのCOVID-19パンデミックの影響を受け、甲南Year-in-Japanプログラム（以下、YiJプログラム）は中止となった。しかし、当初は2021年1月から春学期開講が予定されていたため、2020年11月～12月の2カ月間、来日予定者を対象としたYiJ日本語プレセッションコースが開講されることになった。そして、コースで使用されるオンデマンド教材として計6シリーズ44本の動画教材が作成された。

本稿では、まず、動画教材シリーズ全体の教材開発の背景とねらいについて述べる。その中でも特に、甲南大学の地元・神戸という地域に存在する素材を教材化したことを特色とする3つのシリーズについて、コンテンツの詳細と日本語教師と学習者からの評価を報告する。

2 YiJ日本語プレセッションコース動画教材の全体像

YiJ日本語プレセッションコース（以下、プレセッションコース）は、YiJプログラムに参加を予定している学習者が、来日直後からスムーズに日本の生活と日本語学習をスタートさせるために設定されたものである。コースはオンデマンド動画教材とそれに付随する課題、そして、教師とのZoomセッションがワンセットで一回分の授業が構成されている。単位認定および成績評価はなく、学習者が自主的に選択し、自律的に学習するコースである。コース全体の「学習のねらい」は以下のとおりである。

- 来日前に留学目的地に存在するさまざまなリソース（生活環境、人、事物など）や言語現象の一端に触れ、興味・関心を持つこと。
- 来日前に留学目的地の魅力を知り、留学への期待感、学習動機を高めること。
- 成績評価や教科書にしばられない学びのチャンスを生かし、自由で自律的な学習を楽しむこと。
- 文字、発音、挨拶表現や留学目的地に独特の方言や言語習慣、その他の情報を知っておくことで、来日後の留学生活と日本語学習をスムーズに開始できるようにすること。

プレセッションコースでは、Padletを学習管理システムとし、動画教材と課題の配信、課題の提出と返却、Zoomセッションの予約やZoomリンクの共有などを行った。動画教材はYouTubeにアップロードされた上でリンクをPadletに貼り付ける形で受講生に配信された。動画教材では、①話題提供、②学習事項の解説、③練習、④課題の提示を行った。また、受講生が母校の授業も並行して履修していることに配慮し、このプレセッションコースの動画視聴や課題が受講生にとって過重な負担とならないように、以下の点に配慮した。

- 各動画の長さを10分台前半に収まるようにする。
- 日本語による解説やナレーションは平易な表現で行う。
- 課題にシンプルな正誤判断（○×問題）や英語による記述回答可とする部分を設ける。
- 聴解力の低い学習者に配慮して、日本語字幕・英語字幕の表示を選択できるようにする。

表1にプレセッションコース全体の概要を示す。

表1：YiJ日本語プレセッションコース動画教材シリーズの概要

対象レベル		シリーズ名	授業回数	学習目標
未習者	0初級	ひらがな&カタカナ	10	ひらがな・カタカナの読み書きができるようになる
		あいさつ	5	教室、ホームステイ、店など日常生活の中で必要となる挨拶ができるようになる
既習者	初中級以上	漢字を見つけて楽しもう	8	習った漢字を復習するとともに、苦手意識を克服し、積極的に漢字を使えるようになる
		いろいろな日本語	8	日本語の位相や流行語、方言など、日常会話の中で学習者が出会う日本語の諸相を紹介し、それぞれに興味を持てるようになる
	中上級以上	会ってみたい日本の人々	8	ステレオタイプの日本人像を脱し、身近に存在する日本の人々と対話をしたいという動機を持つようになる
		和訳トレーニング	5	学習者の母語である英語の発想を超え、日本語と母語の違いに気づき、日本語らしい表現習得への方向性を持つようになる

なお、実際に行われた2020年秋の日本語プレセッションコースでのコース登録者数と課題提出完了者数は次の表2の通りであった。

表2：2020年秋YiJ日本語プレセッションコース受講実績

	ひらがな& カタカナ	あいさつ	漢字を見つ けて楽しも う	いろいろな 日本語	会ってみたい日本の 人々	和訳トレー ニング
コース登録 者数(人)	1	1	7	5	6	6
課題提出完 了者数(人)	0	0	1	2	2	2
達成率	0	0	14.3%	40%	33.3%	40%

3 地域リソースに期待できる効果

本稿では、田中・斎藤(1993:45-46)の定義に従って「学習に関するインターアクションの対象となるもの」「学習の素材となるもの」を「リソース」と呼ぶことにする。プレセッションコース動画教材のうち、「漢字を見つけて楽しもう」「いろいろな日本語」「会ってみたい日本の人々」の3シリーズは、甲南大学の地元である神戸市周辺地域の生活環境や、そこに存在する人材、施設など地域由来のリソース、すなわち「地域リソース」を活用してコンテンツが作成されているところを特色としている。

リソースについて、トムソン木下(1997)は、特にリソースと従来の「教材」との違いを対照しつつ、リソースを活用した学習の重要性を次のように述べている。

教科書に代表される「教材」は、教室活動を中心として開発されてきたといっても過言ではないだろう。(中略)教室での日本語使用のために作られ、教えるための材料であるのが「教材」であるとすれば、実社会での日本語使用のための学習に使い、実際の日本語使用にも役立つ、また、日本語使用の対象となる、つまり学ぶ材料であるのがリソースといえるかもしれない。(中略)つまり、「教材」から、従来の「教材」も含めた広義のリソースへの意向は、学習者の教室からの解放を意味する。(トムソン木下1997:18, 二重下線は本稿による)

すなわち、リソースは学習者を教室外での自律的な学びの対象となるものであり、そこにリソースを学習対象とする価値が認められるのである。

リソースの種類について、田中・斎藤(1993:47-48, 104-107)は「人的リソース」「物的リソース」「社会的リソース」という3種類に分類した。それに従って、上記3つのシリーズで紹介したリソースの分類を試み一覧化したものを表3として示す。ただし、「社会的リソース」については動画視聴だけにとどまるとそのコミュニティーには参加したことにならないという意味で表中に(*)のマークを付している。

表3：3つのプレセッション動画教材内で紹介されたリソース

	人的リソース	物的リソース	社会的リソース(*)
漢字を見つけて楽しもう	<ul style="list-style-type: none"> ・小学4年生男児 ・YiJ日本語教員 	<ul style="list-style-type: none"> ・甲南大学岡本キャンパス ・神戸市東灘区岡本周辺地域 ・「灘五郷」地区 ・兵庫県西宮市 ・六甲山 	<ul style="list-style-type: none"> ・書道塾 ・郵便局 ・交通機関(バス, 電車)

		<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市中央区三宮周辺 ・須磨海岸 	
いろいろな日本語	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流センター事務室スタッフ 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流センター事務室 ・甲南大学岡本キャンパス ・兵庫県龍野市 	
会ってみたい日本人の人々	<ul style="list-style-type: none"> ・学生能楽師（甲南大学在学学生） ・現代歌人（甲南大学卒業生） ・子育て中のお父さん ・料理研究家 ・在日外国人（YiJプログラム修了生） ・関西人（YiJ日本語教員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市下京区菊浜学区周辺 	<p>（話題として）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域子育て支援事業 ・食育活動

ここで、留学とリソースの関係について言及しておく。留学とは、さまざまなリソースが身近な生活空間の中にあってそれへの接触が容易になる環境を手に入れる手段である。たとえば、高校留学生の場合を例にとると、村野（1995:63）が図1のように示した通り、彼らは留学によって多種多様なリソースに取り囲まれることになる。

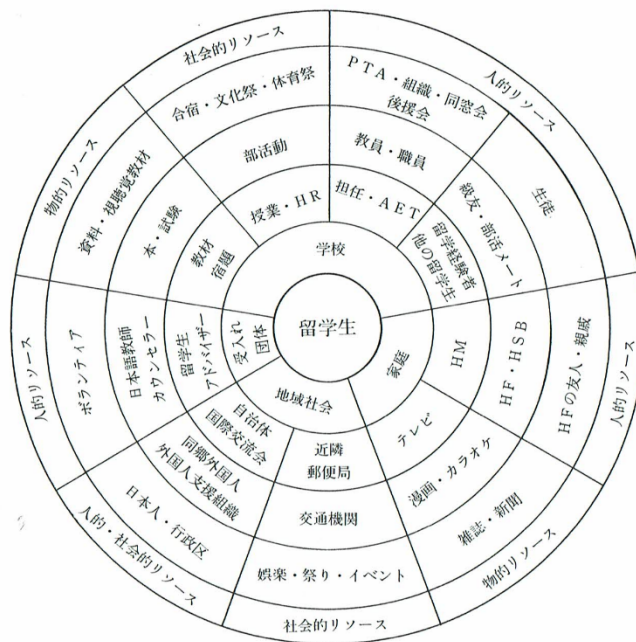


図5 リソースと支援システム

受入れ家庭の母、父、兄弟姉妹をそれぞれ HM、HF、HSB と略す AET は 中学高校に配属される英語の母語話者を指す

図1：高校留学生を取りまくリソース（村野1995:63）

高校留学生でさえこれだけのリソースに取り囲まれるということから考えると、彼らよりも年長で、経済力もあり行動範囲も広がる大学留学生にとっての留学環境はさらに充実し、接触可能なリソースも多種多様化する可能性があるかと推定される。

ただ、可能性としてはそのように推定できたとしても、実際にそれにアプローチしそこから何

かを学ぶかどうかは、留学生個人々の価値観、選択力、実践力などによるところが大きい。過去のYiJプログラム留学生の中にも、恵まれた環境を手に入れていながら、自分の周りのリソースの存在に気づくことすらなく留学期間を終えたケースも見受けられた。そのような過去の事例に基づいて、来日前の準備段階から留学環境で得られるリソースの「予告」をし、学習者の「気づき」と「動機づけ」を活性化した状態で留学に臨ませる必要性を認めてきたことが、今回の動画教材シリーズの開発にあたっての下地となっている。逆にいえば、来日前の留学生にとって魅力のある地域リソースを提示することが効果的に作用して、彼らの「気づき」と「動機づけ」を活性化し、留学中の自律的な学びの成果につなげようというのが、これら3つの動画教材の開発意図である。

4 動画教材のコンテンツと学習者・教師からの評価

本節では、「漢字を見つけて楽しもう」「いろいろな日本語」「会ってみたい日本の人々」の3つのシリーズについて、開発背景、動画教材のコンセプトとねらい、動画の各回の内容を紹介する。それに加えて、数名ずつの協力者から得られた教師・学習者の立場からの評価を得ることができたので、その結果もあげておく。評価は、1シリーズ全8回についての総評とシリーズ中の任意で選んだ2作品についての個別評価とした。評価者の簡単なプロフィールは以下の通りである。

評価者のプロフィールは以下のとおりである。

表4：評価者のプロフィール（教師）

	母語	教育歴	教育機関	現在の勤務地
教師A	日本語	5~10年	日本語学校	日本
教師B	日本語	10年以上	大学	日本
教師C	日本語	1~3年	中学・高校	フランス
教師D	日本語	3~5年	大学	アメリカ
教師E	日本語	10年以上	日本語専門学校	日本
教師F	日本語	1~3年	プライベート	日本
教師G	日本語	10年以上	日本語専門学校	中国
教師H	中国語	5~10年	中学・高校，大学・大学院，プライベート	台湾

表5：評価者のプロフィール（学習者）

	母語	出身国	日本語学習歴	レベル	
学習者1	英語	アメリカ	4年	N2程度	コース受講生
学習者2	英語	イギリス	2年	N4程度	コース受講生
学習者3	英語	イギリス	3年	N2	YiJ修了（2019-20）
学習者4	中国語	中国	6年	N1	YiJ修了（2016-17）
学習者5	英語	イギリス	3年	N2	YiJ修了（2019-20）

4.1 「漢字を見つけて楽しもう」

4.1.1 「漢字を見つけて楽しもう」の開発背景

漢字は、YiJプログラムに参加する欧米諸国（アメリカ、カナダ、イギリス、フランス、ドイ

ツ)からの留学生が最も苦手とすることの多いものである。当プログラムが2016年から2020年までの5年間にわたって、プログラム終了時の5月にプログラム留学生に対して行ってきた「日本語と生活についてのアンケート調査」によると、留学期間中に「話す」「聞く」など日本語運用のスキルはおおむね上達したと肯定的に自己評価をする留学生が多いのに対し、「漢字」は評価にばらつきが出るという特徴がある。図2に5カ年の結果の累計（アンケート協力者計145名）を示す。この結果から、「話す」スキルについては、留学終了時点で「とても上達した」と感じた留学生が48%と半数近く、「かなり上達した」36%と合わせると84%となり、大部分の留学生が「話す」スキルの上達に関しては満足と自信を持つことができていることが確認できる。一方で、「漢字」のスキルに関しては、「とても上達した」「かなり上達した」「少し上達した」が3分の1ずつであり、上達感にばらつきが出ている。こと漢字に関しては、「留学したけれど、なかなか自信が持てない」と自己評価が控えめになってしまうことが欧米系非漢字文化圏からの留学生の特徴とすることができるだろう。

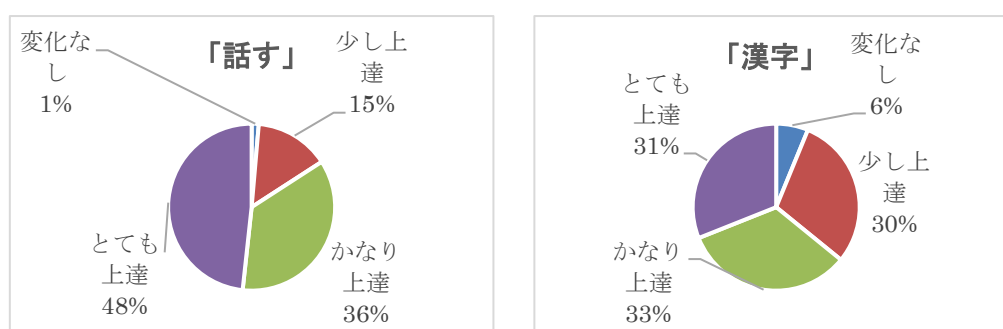


図2：YiJプログラム5カ年調査結果累計：留学期間中の上達についての自己評価比較
2016年5月～2020年5月、回答者累計145名

この原因として、もともと非漢字文化圏学習者にとっては、漢字はハードルが高いことに加え、近年、毎年のように字形の認識や記憶に困難のある留学生が少数ずつ存在しているということもあると考えられる。また、漢字学習がある程度のところで頭打ちになってくると同時に学習意欲が失われたり、甚だしい場合は、「今は日本人ですら漢字を書く必要がなくなってきているのに、どうして外国人が漢字を書かなければならないのか。読めればそれで十分ではないか」と拒否反応を起こすケースもある。

以上のような背景事情を踏まえつつ、学習者が漢字の「形」「音」「意味」の復習と神戸の地域リソースを同時に楽しむことができる動画教材の開発を試みたのが、「漢字を見つけて楽しもう」である。

4.1.2 「漢字を見つけて楽しもう」のコンセプトとねらい

「漢字を見つけて楽しもう」は、初中級レベル以上の既習者を対象とする。少なくとも母校の日本語コースで1年生レベルの日本語を受講したと想定し、その時点での既習漢字を100字～150字程度と想定した。YiJプログラム日本語コースで採用している初級漢字教科書『漢字たまご初級』（凡人社）では162文字の漢字の読み書きを学習するが、それより少し少なく見積もっている。その100字～150字の基本漢字の「復習」がこの動画教材のねらいである。従って、この動画で新しい漢字を覚えさせるということは目指していない。ただ、YiJの日本語中級レベルの教科書である『中級の日本語 改訂版』（The Japan Times）の準備としての効果が見込める程度に、動画内容に合わせて漢字熟語の提示も盛り込んでいる。

また、漢字に対する苦手意識を少しでも払拭できるように、動画を見ているだけでも楽しめる内容にするようにも心掛けた。「楽しさ」を実感する手段として、「空書」のような「手を動かしてするアクティビティ」を提案する内容も盛り込んだ。

漢字が「意味」「音」「形」という3要素で構成されていることを確認し、3要素それぞれを楽しむアプローチの仕方を提案し、逆に、漢字に弱い学習者にとっては苦行でしかない「暗記」（偏旁の名称等の暗記も含む）や一文字を繰り返し書くことの推奨はしない。

さらに、留学目的地である甲南大学周辺地域や地元・神戸が漢字学習に最適のリソースとなりうることを、身近なところに容易く漢字のリソースが得られることを示唆するために、神戸の自然や街、特産品（食品）をテーマにした回もある。これは、「神戸に行ったら、ぜひこの実物を見よう」と思わせることで、その事物とともに、関連する漢字への積極的な探求心を芽生えさせることをねらいとしている。

4.1.3 「漢字を見つけて楽しもう」全8回の概要

「漢字を見つけて楽しもう」は、各回ごとのテーマとそれに沿った題材と学習内容、関連する学習活動が設定されている。学習活動はそれぞれ受講者が動画視聴後に取り組む課題となる。動画では課題のやり方や例を説明する。このシリーズには、甲南大学のマスコット「なんぼー」を登場させ、「なんぼーの漢字Vlog」と銘打ったミニ・コーナーを挿入した。漢字Vlogでは、『できる日本語 初中級』の「話読聞書」に習った短いエッセイを提示し、漢字を使った文章例としてある。最後に各回の内容のまとめ、課題の提示、次回の予告と各回のコンセプトを表す「今日の漢字」の提示で締めくくる。

図3は、このコースの教材が配信されたPadletの一部、表6は各回の概要である。

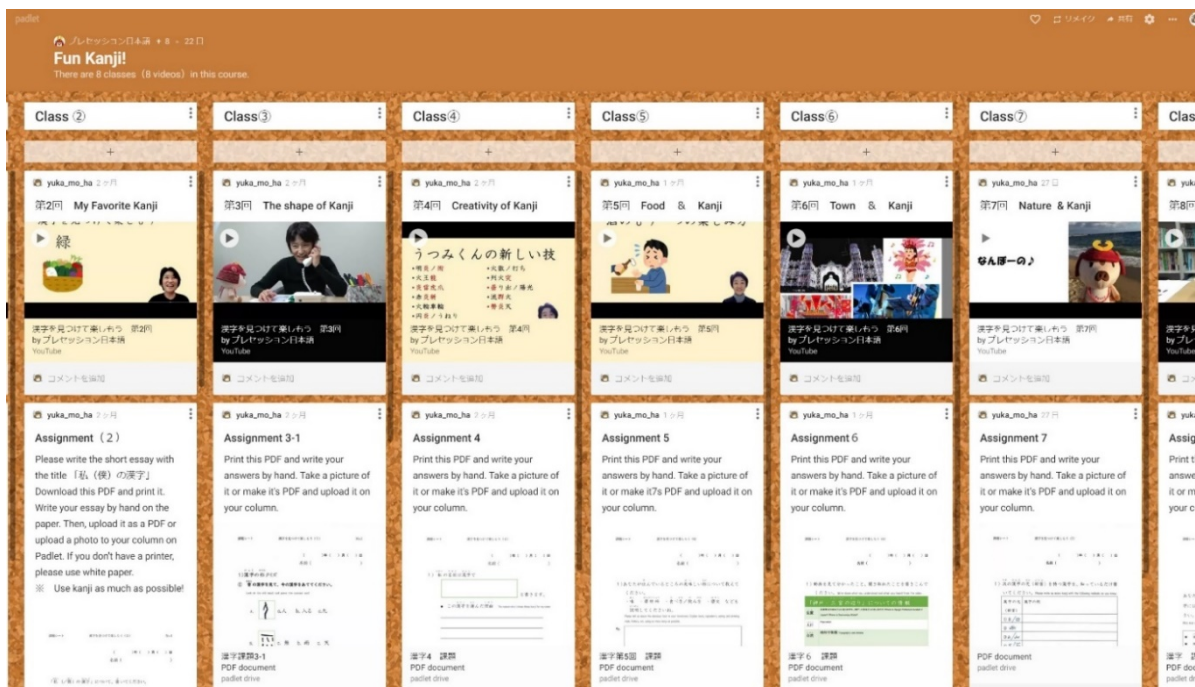


図3：「漢字を見つけて楽しもう」のPadlet

表6：「漢字を見つけて楽しもう」各回の概要

	テーマ	題材と内容	学習活動	なんぼーの漢字 Vlog	今日の漢字
第1回	コースの紹介	各回のテーマ, 構成, 課題のやり方についての説明	(なし)	(なし)	好
第2回	「私」の漢字を楽しむ	自分を象徴する漢字	伝えたい自己を漢字で表現する	なんぼーの「私の漢字」	伝
第3回	形を楽しむ	象形文字 漢字のパーツ 漢字の書き方の説明	漢字の細部を詳細に見る	書道に挑戦	考
第4回	漢字の創造性を楽しむ	漢字の造語例 (元号・令和) 当て字 接辞の漢字	「形・音・意味」の要素を使って, 漢字で造語する	平生さんの名前	新
第5回	食を楽しむ	特産品・清酒 「灘五郷」関連の漢字	好きな食べ物の漢字を調べる	岡本のパン屋さん	快
第6回	街を楽しむ	神戸・三宮の辺り 街の地理・歴史などに関する漢字	街の紹介に必要な漢字熟語を調べる	神戸シティールー プバス・車窓の旅	求
第7回	自然を楽しむ	六甲山 自然に関する漢字	漢字の元(部首)で漢字をグループ化する	須磨の海	元
第8回	漢字の贈り物	漢字で相手に対する気持ちを伝える	簡易な書道を楽しむ	けしごむハンコ	恋

4.1.4 「漢字を見つけて楽しもう」に対する学習者と教師からの評価

このシリーズに対する学習者の評価者は、実際にプレセッションコースに登録した唯一の学習者1である。学習者1が選んだ動画2回分の評価は次の表7の通りである。

表7：学習者1からの「漢字を見つけて楽しもう」に対する評価

評価の対象とする動画	第3回	第5回	平均値
1) この動画について、興味深いと思いましたか	5	5	5
2) この動画には、あなたにとって有益な情報が含まれていましたか。	5	5	5
3) この動画の解説は、理解しやすかったですか。	5	5	5
4) この動画を見て、「自分も課題をやってみたい」という気持ちになりましたか。	4	5	4.5
5) この回の課題は難しいですか。(1 易しすぎ 3 ちょうどよい 5 難しすぎ)	4	3	3.5
6) この動画を見た後、同級生とこの話題について話し合ったり、日本語の先生	4	4	4

に質問をしたりしたいという気持ちになりますか。

学習者1は、このシリーズがターゲットとしている学習者レベルよりもはるかに上級の実力を持っているが、課題の難易度に関して「ちょうどよい」の評価をつけている。このことから、作成者の意図以上に教材と課題の実際の難易度が高くなっている可能性があることが考えられる。

次に、表8として、4名の教師A～Dまでの2回分の評価は次のとおりである。2人以上が選んでいる回に関しては、平均値を示す。

表8：教師からの「漢字を見つけて楽しもう」に対する評価

評価の対象とする動画	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	平均値
評価者	教師 A 教師 C	教師 D	教師 B	教師 D	教師 B	教師 A 教師 C	
1) この動画のテーマについて、学習者は興味を持つと思いますか。	3.5	5	5	4	5	3.5	4.3
2) この動画の内容は、学習者にとって有益な情報が含まれていると思いますか。	3	5	5	4	5	4.5	4.42
3) この動画の解説部分の説明は、学習者にとって理解しやすいものになっていると思いますか。	3	4	3	3	5	3	3.5
4) この動画は、学習者に「自分もやってみたい!」という気持ちで課題に取り組ませる誘導になっていると思いますか。	3.5	5	5	4	5	4	4.41
5) この回の課題について、学習者はどのように感じると思いますか? (1 易しすぎる 3 適当 5 難しすぎる)	3	3	3	3	5	3.5	3.42
6) この質問には教師の視点からお答えください。この動画を見た後、対面授業や ZOOM セッションなど、何らかの形で授業を行うとしたら、さらに内容を膨らませたり、学習活動を展開させていくことが可能だと思いますか。	3.5	5	5	5	3	3.5	4.17

教師Bが第6回の課題に関して「5難しすぎる」の評価をしていることも、学習者1が課題の難易度を「ちょうど良い」と感じることに一致するのではないだろうか。また、解説部分の分かりやすさの評価が中程度であり改善が必要とされていることが伺える。

4.2 「いろいろな日本語」

4.2.1 「いろいろな日本語」の開発背景

「いろいろな日本語」の開発背景には、YiJ留学生にとっての関西弁という難問に留学前から意識的に向き合わせる必要性を常々認めていたところにある。留学生のほとんどは来日前から関西弁の存在を知っている。しかし、実際に来日して生活が始まると、日本語そのものもおぼつかない上に「関西弁」の聞き取りに困難を覚えるという留学生の数は少なくない。しかし、「ホストファミリーの関西弁が早すぎて分かりません」という言葉とともに耳を塞いでしまうのではなく、逆に興味を示して周りの母語話者とのコミュニケーションを深める方向に導けないものだろうか…というところから、この「いろいろな日本語」シリーズの構想に至った。

方言だけではなく、教科書をベースにした授業の中ではあまり強調されることのない丁寧体と

普通体の使い分けや、日本語特有の言語表現であるオノマトペなど、9カ月間という留学期間があっても授業では積み残されてしまう言語現象はいくつもある。が、逆に、授業では何かが積み残されるのが前提であるならば、留学生自身が自律的に学ぶ姿勢を持って、日本語の中の興味深い言語現象にアプローチするように導いていけばよいのではないだろうか。

また、世界が多言語多文化社会へと動いていく中で、日本語にも多様性があることを伝えていかなければならない時代が来ている。日本語にはいろいろな種類がある。標準語も方言も、マンガのキャラクターたちが話すセリフも、日本語である。英語に“World Englishes”があるなら、外国人の話す日本語も「日本語たち」の中の一つの 카테고리である。「いろいろな日本語」というシリーズのタイトルには、そんな意味合いが込められている。

4.2.2 「いろいろな日本語」のコンセプトとねらい

「いろいろな日本語」は対象レベルを「漢字を見つけて楽しもう」と同じく、初級を一通り学習した段階としている。つまり、文法の重要項目は既習であると想定し、それについての説明はしない。新しい文法事項は導入せず、既習事項が自然な会話の中でどのように使われているかを「会話スキット」で確認する。また、コースの受講生も会話スキットに声を出して参加することを課題とし、その音声を録音して提出させる。これは、日本人の会話の中に臆せず入っていくような感覚を体験させるためである。

「会話スキット」は、登場人物を「KIEC事務室のスタッフ」の似顔絵キャラクターとし、関西の日常生活の中で普通に話されている会話ということにしてある。そのため、会話のそこそこに関西弁が使用されている。登場人物全員が関西弁話者という設定ではなく、関西と言っても「いろいろな」方言話者がいる設定にしてある。また、一人の人物でも場面や相手に応じて“いろいろな”日本語を使い分けていることも「会話スキット」の中で示している。

このようにして、「いろいろな日本語」のコース受講生に「日本語の多様性」と「相手や場面に応じた使い分けをすることの重要性」を伝えることが、このコースのねらいである。また、それを、ただ受身的に説明を聞いて理解するというのではなく、「ここでこの人物はどうしてこんな話し方をしたのだと思いますか？」と問いかけることで、受講生自身に考えさせる。このようにして受講生が自ら言語現象の裏に存在するものに興味を抱き自ら探求しようという気持ちを喚起している。

4.2.3 「いろいろな日本語」全8回の概要

「いろいろな日本語」の動画は、毎回ごとのテーマに沿って、①学習項目の導入と解説、②会話スキットの提示、③スキットの中の大切なポイントの確認、④スキット練習（受講生が登場人物の一人になりきり、会話に参加する練習）、⑤まとめと課題の提示という構成になっている。動画を視聴した受講生は、ワークシートと会話のセリフを練習して自分の声を録音して提出することが課題となっている。課題提出後、Zoomセッションで教師と課題を復習し、会話の練習をする。

図4は、実際に使用された「いろいろな日本語」のPadletであり、表9は各回のテーマとコンテンツの概要である。

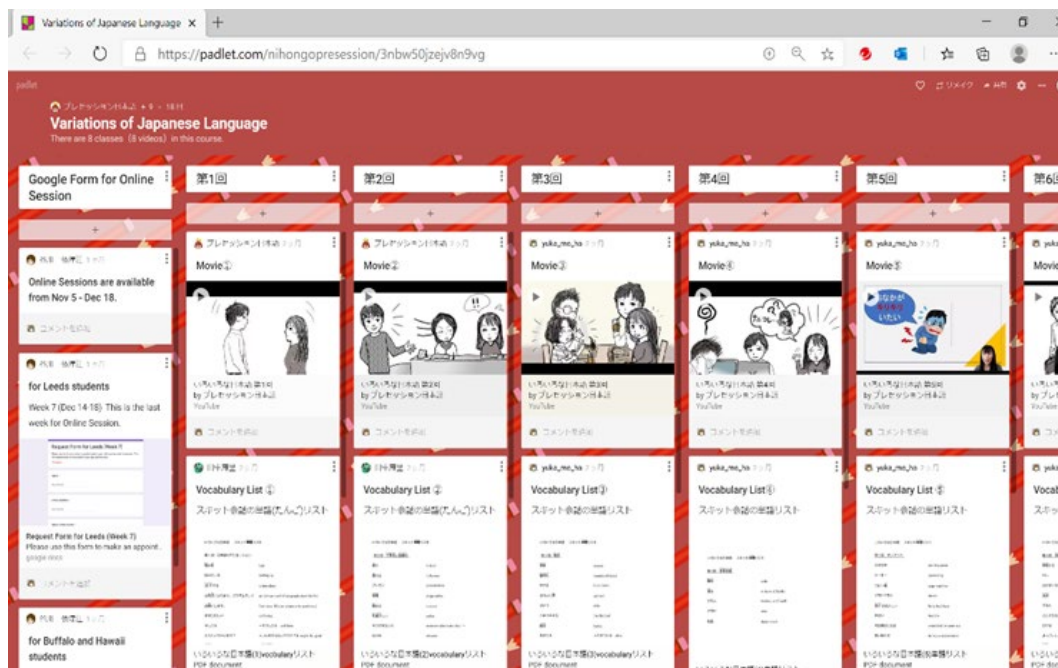


図4：「いろいろな日本語」のPadlet

表9：「いろいろな日本語」各回の概要

	テーマ	ポイント	会話スキット
第1回	コースの紹介	日本語にはいろいろなバリエーションがある（丁寧体・普通体，方言，男女差など）	「がんばれナカモリ君！」 さおりさん，はじめまして
第2回	丁寧体と普通体	場面に応じた丁寧体・普通体の使い分け，言語表現と心理的距離	さおりの初仕事
第3回	敬語	受身尊敬動詞を使おう 敬語が表す心理的な距離と気持ち	オームラさん叱られる
第4回	若者言葉	若者言葉を使う人と場面，死語	オバタ課長の謎
第5回	オノマトペ	音，様子，心理を表すオノマトペ オノマトペと関西	コピー機はこう直す
第6回	役割語	役割にふさわしい話し方 場面と相手に応じた切り替え	ナカモリの長い一日
第7回	方言（関西弁）	日本の方言，関西弁の特徴	休みの日
第8回	まとめ	全体のまとめ	（復習）

スキット会話の登場人物であるKIEC事務室スタッフたちが甲南大学を舞台に繰り広げる和やかな人間関係と日常のほほえましい事件。そのストーリーが展開し，視聴者とその物語世界を楽しめるようになっている。同時に「この人に会いたい」という気持ちを起こさせ，実際に来日した暁には実物に会えるという仕掛けになっている。

4.2.4 「いろいろな日本語」に対する教師・学習者からの評価

学習者からの評価は、実際にコースを受講した学習者1とYiJ修了生の学習者3から得られた。どちらも上級者レベルの実力があり、「いろいろな日本語」の視聴は難なく楽しめたようである。表10に、学習者2人の動画2回分の評価を示す。

表10：学習者からの「いろいろな日本語」に対する評価

評価の対象とする動画	第3回	第4回	第5回	第6回	平均値
評価者	学習者3	学習者1	学習者1	学習者3	
1) この動画のテーマについて、興味深く感じましたか。	5	5	5	5	5
2) この動画には有益な情報が含まれていましたか。	5	5	5	5	5
3) この動画の説明は、理解しやすかったですか。	5	5	5	5	5
4) この動画の会話スキット（まんが）について、自然な会話らしいと思いましたか。	5	5	5	5	5
5) 会話スキットの音声の速度はどうでしたか。	少し早いが、チャレンジングでいい	ちょうどいい速さである	少し早いが、チャレンジングでいい	少し早いが、チャレンジングでいい	
6) 会話のスキット練習について、どう感じますか。	5	4	5	4	4.5
7) この回の課題は難しいですか？（3：ちょうど良い）	3	2	2	3	2.5
8) この動画を見た後で、日本語の先生に質問したり、同級生と話し合ったりしたいと思いますか。	5	5	5	5	5

教師の立場からは3人の母語話者教師と1人の非母語話者教師から評価が得られた。以下表11に結果を示す。

表11：教師からの「いろいろな日本語」に対する評価

評価の対象とする動画	第2回	第3回	第4回	第6回	第7回	平均値
評価者	教師E 教師F	教師F 教師G	教師H	教師G 教師H	教師E	
1) この動画のテーマについて、学習者はどのように感じると感じますか。	4.5	4.5	4	4	5	4.4
2) この動画の内容は、学習者にとって有益な情報が含まれていると思いますか。	4.5	4.5	4	3	5	4.2
3) この動画の解説部分（導入&「大切なポイント」）の説明は、学習者にとって理解しやすいものになっていると思いますか。	3.5	3.5	4	3.5	4	3.7
4) この動画の会話スキット（まんが）の話の展開について、学習者はどう感じると感じますか。（1 不自然 5 自然）	4.5	3.5	3	3	4	3.6
5) 会話スキットの音声の速度について、学習者はどう感じると感じますか。	少し早い・ちょうどいい	ちょうどいい速さである	ちょうどいい速さである	ちょうどいい速さである	少し早いが、チャ	

					レ ン ジ ン グ で い い	
6) 会話のスキット練習について、学習者はどう感じるとお思いますか。(1 やりたくない 5 やりたい)	4	3	4	3.5	4	3.7
7) この回の課題について、学習者はどのように感じるとお思いますか？(1 易しすぎ 3 適当 5 難しすぎ)	3	3.5	4	3.5	4	3.6
8) この質問には教師の視点からお答えください。この動画を見た後、対面授業や ZOOM セッションなど、何らかの形で授業を行うとしたら、さらに内容を膨らませたり、学習活動を展開させていくことが可能だと思えますか。	4.5	5	4	4.5	3	4.2

ここでも、「漢字を見つけて楽しもう」と同じく、解説部分の分かりやすさについての教師からの評価がそれほど高くない。また、会話のスキット練習について、学習者があまりその気にならないのではないかという見込みが出ている。動画内の技術的な凡ミスや会話スキットの「棒読み」感なども指摘されており、将来的に改訂やプレゼンテーションの仕方の見直しが必要である。

4.3 「会ってみたい日本の人々」

4.3.1 「会ってみたい日本の人々」の開発背景

これまでのYiJプログラムでは、留学しながら日本語を使うのは日本語のクラスだけで、後は英語で通してしまうという留学生が毎年必ず存在していた。理由はささいなものから深刻なものまで様々であろう。また、年ごとの留学生全体の雰囲気にも左右されているようであるが、留学のチャンスを生かし切れていないことは確かである。下のデータは前出した過去5カ年調査における質問項目「留学期間中に日本語だけでコミュニケーションをとる知り合いができましたか」の回答者数 (%) である。

表12：過去5カ年間プログラム終了時点での調査

	はい、たくさん	はい、少し	いいえ、全然	計
2015-2016	14 (38%)	19 (51%)	4 (11%)	37 (100%)
2016-2017	10 (37%)	16 (59%)	1 (4%)	27 (100%)
2017-2018	9 (35%)	17 (65%)	0 (0%)	26 (100%)
2018-2019	19 (54%)	13 (37%)	3 (9%)	35 (100%)
2019-2020	7 (35%)	12 (60%)	1 (5%)	20 (100%)

(単位：人)

2019-2020年度はコロナ禍の影響で、人との接触を制限されたという事情があるため別個に考える必要がある。が、2015年からの4カ年間のデータの中で、2018-2019年度だけが「日本語だけでコミュニケーションをとる知り合いがたくさんできた」のが半数を超えているが、他の3カ年は40%に達しない。もちろん、これはコミュニケーションの質は問題にしていないので、一概に是非を言うことはできない。しかし、YiJプログラムの留学生全体に対して、日本人と日本語でじっくり話す機会の設定が必要であることは確かである。そのために、従来のYiJプログラムで

は、「日本語授業サポーター」という制度を設け、日本語の授業に日本人学生を招いてディスカッションの輪の中に入れてもらっていた。また、文化体験ワークショップの機会を設け、文化人ゲストを招くなどの工夫も重ねていた。

しかし、理想は、このような仕掛けがなくとも、留学生が自ら求めて日本人と出会って日本語でコミュニケーションをとり、いろいろな話題に参加していけるようになることである。その理想の実現に向けて留学生の動機づけを高めておくために、この「会ってみたい日本の人々」のシリーズが考案され、開発された。

4.3.2 「会ってみたい日本の人々」のコンセプトとねらい

「会ってみたい日本の人々」シリーズは、中級レベル以上の学習者を対象とする。このシリーズのねらいは、甲南大学YiJプログラムの周辺の、留学生のごく身近な環境にこんな魅力的な人的リソースがあるということを知らせることである。ゲストスピーカーには、YiJ留学生が実際にアクセス可能なところに存在する人物、特に甲南大学にゆかりのある関係者、あるいは、日本のどこにでもいそうな一般人が登場する。

ゲストスピーカーには「生」の日本語で話すことをお願いし、語彙や話すスピード、アクセント、方言などには調整を加えなかった。これがたとえ視聴する学習者にとって難易度が高すぎるものであっても、「生の日本語」の実態に触れておいた方がよいと判断したからである。学習者には、「一般人からこんなに面白い内容の話が聞けるのか」ということを体験させると同時に、「こんな生の日本語を聞き取れるようになりたい」という動機づけを促進させるところにねらいがある。

さらに、ゲストスピーカーの人選にあたっては、「外国人が持つステレオタイプな日本人像」から離れたイメージの人物を選んだ。たとえば、一見、今時の大学生らしからぬ学生能楽師や、「男尊女卑」のイメージを払拭した子育てに積極的に参加する若い父親などである。日本に住んでいるのは日本人だけではないということでYiJプログラムOBの在日外国人にも登場してもらった。

また、コロナ禍の状況がどんどん深刻化する中、ゲストスピーカーには最後に「日本留学の夢をあきらめないで」というポジティブなメッセージで締めくくってもらうようお願いした。視聴者を激励し、日本語学習への動機を維持させることもこの動画シリーズのねらいであるからである。そうしたところ、ほぼすべてのゲストが激励とともに「地元の魅力」もアピールすることになり、結果的にシリーズ全体として「留学先の“地元”となる地域社会に学ぼう」というコンセプトで統一される仕上がりとなった。

4.3.3 「会ってみたい日本の人々」全8回の概要

「会ってみたい日本の人々」は、2分程度のインタビュー部分と、気楽にみられる映像部分との組み合わせで構成され、最後にはゲストからのポジティブなメッセージで締めくくられる。以下、図5に教材配信用に使用したPadlet画面、表13に各回のテーマとゲスト、インタビュー内容の概要を示す。

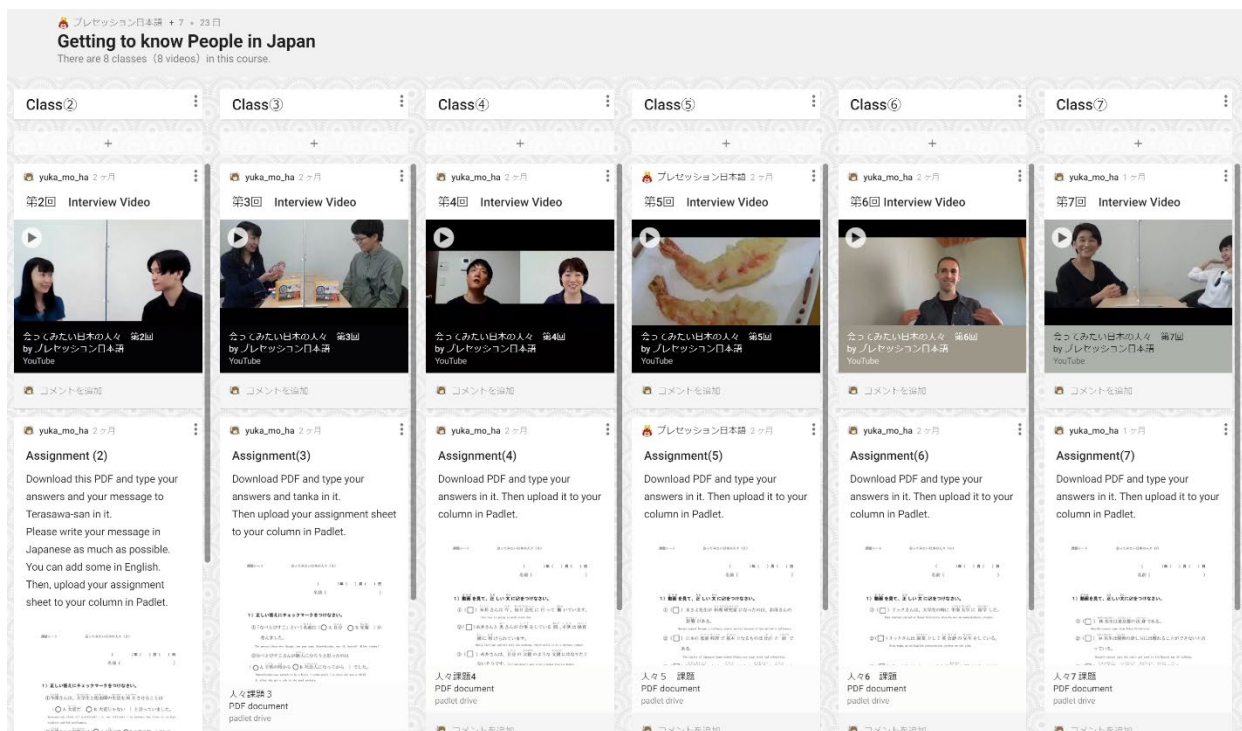


図5：「会ってみたい日本の人々」のPadlet

表13：「会ってみたい日本の人々」の概要

	テーマ	ゲスト	内容
第1回	イントロダクション		
第2回	伝統を受け継ぐ・学生能楽師	寺澤拓海	能楽師と学生生活との両立について 伝統文化の継承者としての思い
第3回	ことばはリズム・現代歌人	なべとびすこ	短歌の作り方 日本語をリズムでつなぐ
第4回	家族のために頑張るぞ・若いお父さん	糸井さん	若いお父さんの家族観 地域社会の中での子育て
第5回	食の大切さを伝えたい・料理研究家	まさよ先生	和食の特徴 地産地消と地球環境の保護
第6回	僕は日本で暮らします・在日外国人	リックさん	YiJプログラムの修了生のその後の選択
第7回	関西は面白いで	YiJ日本語教員	関東と関西の違い 関西人あるある 方言を学ぶメリット
第8回	まとめ		

4.3.4 「会ってみたい日本の人々」に対する学習者からの評価

「会ってみたい日本の人々」に関しては、評価協力者の教師は得られず、学習者4名からの評価

を得るにとどまった。結果を表14に示す。

表14：「会ってみたい日本の人々」に対する学習者からの評価

評価の対象とする動画	第2回	第4回	第5回	第6回	第7回	平均値
評価者	学習者2	学習者5	学習者1 学習者4	学習者1 学習者2	学習者4 学習者5	
1) この動画は興味深いものでしたか。	5	4	5	5	5	4.8
2) この動画の内容は、あなたにとって有益な情報が含まれていましたか。	5	3	5	4.5	4.5	4.4
3) このインタビューは、あなたにとってチャレンジングな聴解練習になりましたか。	5	3	3.5	3.5	3	3.6
4) この回の課題は難しいですか？ (1易しすぎ 3適当 5難しすぎ)	3	3	3	2.5	3	2.9
5) この動画を見た後で、日本語の先生に質問してみたいことや、クラスメートたちとこの話題について話したいと思うことがありますか？	3	4	3.5	3.5	4.5	3.7

評価協力者の学習者1, 4, 5は日本語能力レベルがかなり高く、この動画教材のインタビュー程度であれば大してチャレンジングな聴解練習とは言えない。特に、在日外国人の日本語はシンプルで易しすぎるとの指摘が実際に受講した学習者1から得られた。逆に、学習者2のように、初中級者だと生の母語話者のインタビューの聴解は手ごたえがあるという評価だった。学習者2の実力では、実際には、音声を聞いて理解したというより英語字幕を読んで内容を理解したということだったと推測できる。だが、学習者2は自分の本来の実力よりも高いレベルに挑戦したいタイプの学習者なので、英語字幕の助けを借りつつ高度な内容に触れることが満足感につながったようである。自律的な学習においては、このような学習法も可能であるし、有効である場合もあるだろう。

また、最後の5)のレーティングがあまり高くない点も今後の検討課題である。これは学習者側の問題か動画内容の問題か不明である。この点は引き続き検討課題としておく。

5 まとめと今後の課題

動画教材作成は作成者自身にとって初めての経験でもあり、技術的に困難な点が多々あった。仕上がった動画教材に対して、コースを受講した学習者や評価をした教師から、音声のボリューム、スライド、朗読の仕方などの不備に関して数か所の指摘があった。

このほか、動画教材コンテンツの構想において非常に困難を覚えたのは、ターゲットとなる学習者・コース受講生が実際にはどんな日本語能力や個性を持っているのか全く分からぬままに動画教材を作らざるを得なかったという点である。これまでの通常授業コースなら、眼前にいる学習者の日本語能力や個性・好みも把握できており、また教材に対する反応もすぐに得られるので、微調整をしつつ教材を完成形に仕上げていくことが可能であった。片や、今回の動画教材作成では“見ず知らず”の学習者を想定して最初から完成形を打ち出さなければならず、それが従来とは違う高いハードルであった。それに加えて、刻々と悪化するコロナ禍の状況を鑑みて、動画教材の題材、内容、メッセージに配慮を加える必要もあり、作成者は常に緊張を強いられるようなところもあった。

仕上がった動画教材に対して、評価協力者の教師から、「全体を通しての流れに統一感がある（教師E）」「構成がしっかりしている（教師C）」という点を高く評価するコメントがあり、この点は本動画教材の強味と言えることがわかった。また、教師Eからのコメントに本稿の筆者が共感を覚える指摘があったので、その部分を抜粋して紹介する。

- 今年一年オンライン教育をしてみて、私が教師として学んだことは、学習者は教師が思っているよりも目から入ってくる情報（印象）から多くを受け取り、学んでいくということです。これは、PCに親しんでいる今の若者だからかもしれませんが。楽しくわかりやすいイラストと音楽などが、これかもっと重要になってくると思いました。このシリーズを一気に見ましたが、疲れませんでした。学習者への負担もそれほど重いものではないと思います。（下線は本稿の筆者による）

教師Eがオンライン学習上の特性として、学習者が目から入る情報を負担感なく多く受け取ることができることを指摘しているが、筆者も動画教材を作成しながら同様のことを感じていた。対面授業で60分から90分の時間をかけて学習する内容を、動画教材では10分程度の時間で学習者に伝えきってしまうことができる。しかも、受信者である学習者が多くの情報を受け取っているにも関わらず負担感に気が付かない。この点は動画教材の特性でもあり陥穽でもあると考えることができるだろう。今後、さらに動画教材の作成と活用をする方向に向かう上で、教師はこの点をわきまえておく必要がある。

また、この動画教材シリーズについて「作成者の工夫が見えるところはどこか」という質問に対し、「漢字を見つけて楽しもう」シリーズの評価をした教師から次のような回答があった。

- 漢字を身近なものとして繋げて紹介しているところです。「日本留学への憧れの火を消さない」という目的がとても伝わる動画で、漢字の勉強をしながら神戸を旅行しているような気持ちになり、早く日本に行きたいという気持ちを引き出してくれると思います。また、漢字圏でない学生にとっては漢字の勉強は先が見えず、退屈になってしまいがちですが、漢字を覚えるコツや楽しみ方が紹介されているので、漢字学習の助けになると思いました。（教師C）
- 漢字の必要性や知識をお伝えされていることはもとより、甲南大学や周辺地域の情報がたくさん入っているところです。学生が実際に来日した際には、大学やコミュニティーに入っていく動機付けにもなるのではないのでしょうか。（教師D）

2人の教師の指摘はまさに教材作成者の意図をついたところである。この地元が人的・物的・社会的リソースを豊かに包括した日本語学習リソースの複合体であり、留学とはそのような環境の中に身を置き、リソースを活用して自律的に学習を進める機会である。この動画教材シリーズはそのことを来日前の準備段階で意識させるために機能するということが、これらのコメントから読み取れる。

最後に、コース受講生だった学習者1、学習者2からは次のような温かいコメントが寄せられている。

- 「いろいろな日本語」について
I think these videos were organized very well. Listening to an introduction of the topic, watching a skit, reviewing key points, and then practicing the skit again was a good way of internalizing information. The topics were also nice and helpful for the kinds of situations we will probably experience if we someday live or work in Japan. It might have been interesting to see more wakamono kotoba or types of speech that are common for students, but I think most of what we should know as adults learning Japanese was covered. This was a really great video series and I feel that I learned a lot!（学習者1）

- 「会ってみたい日本の人々」に対して

I loved it! I think there was a great variety of people from everyday working people, cultural highlights and foreigner in Japan. For any students outside of Japan, this is a great resource to understand people in Japan, which is very important when visiting or studying a country and it's language. (学習者2)

コロナ禍に翻弄された日々の中、学習者たちは、動画教材に向き合っている間は暗い状況を忘れ、日本、神戸、そして甲南大学に思いを馳せながら学習に集中できていたのであろうか。そうであったならば、教材開発に携わった者として幸いに思う。

今後の課題は、コロナ禍収束後のYiJプログラム再開時に向けて、今回作成した地域リソースを活用した動画教材に改訂・改良を加え、実際にプレセッションコースを運用して従来以上の成果を生む留学プログラム日本語コースを構築していくことである。そのために、検討を重ねていきたい。

謝辞

本稿で報告した動画教材シリーズの開発・作成にあたり、神戸市より研究助成金：大学発アーバンイノベーション神戸（課題番号A20113, 「新しい留学プログラムin神戸」構想とオンライン留学前準備コースの開発, 研究代表者：谷川依津江, 令和2年度）の支援を受けました。

また、動画教材作成にあたり、出演協力者、国際交流センター事務室スタッフ、YiJプログラム日本語コースの動画教材作成チームの皆様にご協力をいただきました。

この場をお借りして、感謝申し上げます。

参考文献

- [1] 田中望・斉藤里美, 日本語教育の理論と実際. 大修館書店, 1993.
- [2] トムソン木下千尋, “海外の日本語教育におけるリソースの活用,” 世界の日本語教育, vol.7, pp.17-29, 1997.
- [3] 村野良子, “高校留学生のための日本語教育—学習内容・学習過程・学習支援の方法,” 日本語教育の課題—ICU日本語教育四十周年記念論集. 東京堂出版, pp.38-67, 1995.